

# 目 次

●法と政治（国際政治学） .....	- 1
●法と政治（情報社会と法） .....	- 2-
●法と政治（江戸時代の法と政治） .....	- 3-
●法と政治（現代社会と洗脳） .....	- 4 -
●法と政治（環境と法・政策） .....	- 5 -

2010年度 前期	曜日・校時 木1	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566007001 授業科目/(英語名)	●法と政治 (国際政治学) Law and Politics		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 205	
対象学生(クラス等)	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 和達 容子 / ywadachi@nagasaki-u.ac.jp / 環境科学部 419 / 2729 / 水曜日 12:30-13:30			
担当教員(オムニバス科目等)	和達 容子		
<b>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</b> <b>ねらい:</b> 講義をきっかけにして、日常的に社会及び世界の動きに知識と理解をもつこと。また、その知識と理解を高めること。 <b>授業方法(学習指導法):</b> 講義形式で行う。必要に応じてビデオ教材などを用いる。 <b>到達目標:</b> 現在の国際関係にある歴史的背景の概略を説明できるようにする。			
<b>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</b> 第16回 予備日 第二次世界大戦後の国際関係を米ソ冷戦を中心に追う、国際政治史の講義となる。 第1回 授業の進め方について(4月15日) 第2回 冷戦の開始 第3回 米ソ対立の激化期 第4回 平和共存の模索 第5回 核開発競争 第6回 キューバ危機 第7回 中ソ対立 第8回 多極化の時代 第9回 緊張緩和期① 第10回 緊張緩和期② 第11回 新冷戦期 第12回 新冷戦から新デタント・冷戦終結へ 第13回 ポスト冷戦期 第14回 まとめ 第15回 定期試験			
キーワード	国際政治史		
教科書・教材・参考書	教科書は指定しない。参考書は授業中に適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等	定期試験(100%)。平素の授業への取り組みも配慮する。その他詳細なルールは第1回目の授業において説明する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 木2	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566007002 授業科目/(英語名)	●法と政治(情報社会と法) Law and Politics		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 103	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 岡本 芳太郎 / yokamoto@nagasaki-u.ac.jp / 経済学部本館 6階 607 研究室 / 095-820-6329 (内線 6329) / 木曜日 13:20-14:20			
担当教員(オムニバス科目等)	岡本 芳太郎		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: ITネットワークの進展に伴い生じている情報取引や情報通信に関する種々の問題を規律する法についての基礎的な理解を得る 授業方法(学習指導法): 授業計画に沿ったプリント資料を配布し、講義形式で行うが、随時小テストを実施する。テキストは補充的に使用する。 到達目標: 新聞等で報じられる IT ネットワークに関連する簡単な法律問題について理解し、他人に説明できるようにすることを目標とする。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) ITネットワークに関連する法令等のうち、情報の発信、利用に関する著作権法や人格権法に関する分野と電子商取引やこれに十字する事業者に関する規制を中心に学習する。可能な限り事前にプリントを配布するので、テキストとあわせて予習しておくことが望ましい。宿題形式の小テストのほか、定期試験を実施する。 第16回 8月5日 定期試験 第1回 4月15日 著作権・著作隣接権(著作物・著作者) 第2回 4月22日 著作権・著作隣接権(著作者人格権・著作権) 第3回 5月6日 著作権・著作隣接権(著作権・著作隣接権) 第4回 5月13日 著作権・著作隣接権(著作権の制限) 第5回 5月20日 著作権・著作隣接権(著作権の利用と侵害からの救済) 第6回 5月27日 特許権(ビジネスモデル特許等) 第7回 6月3日 その他の知的財産権(商標・ドメインネーム等) 第8回 6月10日 名誉毀損とプライバシー権 第9回 6月17日 肖像権とパブリシティ権 第10回 6月24日 個人情報保護法と営業秘密 第11回 7月1日 刑事規制(迷惑メール・わいせつに関する罪等) 第12回 7月8日 プロバイダの責任 第13回 7月15日 電子商取引(契約の成立・消費者保護等) 第14回 7月22日 電子商取引(事業者の責任・電子決済等) 第15回 7月29日 電子商取引(国際取引等)・まとめ			
キーワード	著作権 情報管理 人格権 個人情報 電子商取引		
教科書・教材・参考書	テキスト 岡本 薫「著作権の考え方」岩波書店(新書)2003年 岡村久道・森亮二「インターネットの法律」電気通信振興会2009年		
成績評価の方法・基準等	定期試験 70%、授業への貢献度 15%、小テスト 15%。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 月3	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566007003 授業科目/(英語名)	●法と政治 (江戸時代の法と政治) Law and Politics		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 429	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 福留 真紀 / fukutome@nagasaki-u.ac.jp / 教育学部本館6階614号室 / / 水曜5限			
担当教員(オムニバス科目等)	福留 真紀		
<b>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</b> <b>ねらい:</b> 江戸時代の政治機構と司法制度を学び、そこから見えてくる現代社会のあり方の違いを理解する。 <b>授業方法(学習指導法):</b> 教材はプリントを配布し、それをもとに講義形式で進める。毎時間終わりに、小レポートを課し、考えをまとめ、提出させる。適宜、参考文献を紹介する。また、パワーポイントなどを使用することもある。 <b>到達目標:</b> ・江戸時代の政治機構について説明することができる。 ・江戸時代の司法制度について説明することができる。 ・江戸時代の社会のあり方について考察することができる。			
<b>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</b> 本講義では、徳川幕府の政治機構と司法制度の仕組みについて学びます。 「裁判員制度」がはじまったことで、最近、「裁判」についての関心が高まっています。それでは、歴史をひも解き、江戸時代の「裁判」とはどのようなものだったのでしょうか。現在に通じるところは果たしてあるのでしょうか。 江戸時代の裁判は、他の時代に比べて、知っているように思っていないですか。時代劇には、お白州の場面は良く登場しますし、御馴染は、大岡越前、遠山の金さんの名裁き、といったところでしょうか。 しかし、彼らは本当に名裁判官だったのか。そもそも裁判はどのようにおこなわれていたのか。町奉行は裁判以外にどのような仕事をしていたのか。前提として、徳川幕府の政治機構を学び、史料を分析しながら、様々な疑問を解き明かしていきます。 第1回 10月 4日 ガイダンス 第2回 10月18日 武士身分の階層 第3回 10月25日 江戸城の内と外 第4回 11月 1日 徳川幕府の政治機構 第5回 11月 8日 裁判は誰がやるのか 第6回 11月15日 町奉行所の仕組み 第7回 11月22日 「公事方御定書」とは 第8回 11月29日 罪と罰 第9回 12月 6日 大岡越前① ――その出世 第10回 12月13日 大岡越前② ――「大岡裁き」の真相 第11回 12月20日 大岡越前③ ――その仕事 第12回 1月17日 遠山の金さん① ――その人物 第13回 1月24日 遠山の金さん② ――なぜ「名奉行」と言われたのか 第14回 1月31日 遠山の金さん③ ――「天保改革」をみる 第15回 2月 7日 まとめ			
<b>キーワード</b>			
教科書・教材・参考書	テキストはプリントを使用します。参考文献は適宜授業中に紹介します。		
成績評価の方法・基準等	小レポート30%、最終レポート70%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標	全学部が対象の授業ですが、江戸時代の知識を身につけることができますので、教育学部で社会科学にかかわる学生は、特に受講を勧めます。		
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 水3	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566007004 授業科目/(英語名)	●法と政治 (現代社会と洗脳) Law and Politics		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 102	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 安部 俊二 / abe-s@nagasaki-u.ac.jp / 教育学部本館6階617研究室 / 095-819-2309 / 水曜5校時			
担当教員(オムニバス科目等)	安部 俊二		
<b>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</b> <b>ねらい:</b> 洗脳を宗教・政治・経済カルトなどに限定せず「密室的状況を利用した(強制的)思考転換」としてとらえると、多くの現代の社会現象は「洗脳」的性格を帯びたものとして理解できる。洗脳の視角から現代社会を分析することによって新たな社会像を模索したい①。また「犯罪と人権」に関する基本的な考え方を学ぶ。具体的には、犯罪被害者(支援)、冤罪被害、犯罪報道、死刑、「裁判員裁判」について理解を深め、国民の「裁判参加」に対応できる基礎的な知識を習得したい②。 <b>授業方法(学習指導法):</b> ドキュメンタリー映像、講演、映画を<テキスト>に「現代社会と洗脳」「犯罪と人権」の問題を考える。 <b>到達目標:</b> 洗脳という新たな視角からの現代社会分析の理論的枠組みを修得すること①、犯罪と人権に関する基本的な知識・考え方を修得すること②が、本講義の到達目標である。			
<b>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</b> 講義は、まず「洗脳」の理論的概要を理解し、続いてドキュメンタリー映像・映画・講演をテキストに、現代社会におけるいくつかの社会現象の「洗脳」的側面を検討し、最後に「犯罪と人権」についての基本的事項を理解する3部構成である。 なお、講義内容・展開は世界情勢・受講生の要望で変更・選択するが、以下の内容を予定している。 0. 洗脳の基礎理論 (第1・3回) 1. 現代社会と洗脳 (第2・3・4・5・6・7・8・9回) ①アメリカ海兵隊新兵教育 (第2・3回) ②ギリシャ憲兵教育 (第2回) ③国家と狂気―旧ソ連特殊精神病院 SPH・大津事件・虎ノ門事件― ④「よど」号亡命者と日本人拉致―北朝鮮における洗脳の事例研究― ⑤チリ軍事政権下の拷問と洗脳 ⑥現代日本における洗脳―宗教・経済・カルト、自己啓発セミナー― 2. 犯罪と人権 (第10・11・12・13・14・15回) ①犯罪被害とその支援 ②冤罪被害―大分・女子短大生殺害事件の事例研究― ③犯罪報道―現場からの報告― ④裁判員裁判制度 定期試験 (第16回)			
<b>キーワード</b>	洗脳		
<b>教科書・教材・参考書</b>	教科書: リチャード・キャメリアン『洗脳の科学』(第3書館・1994年) 櫻井義秀『霊と金:スピリチュアル・ビジネスの構造』(新潮社[新書]・2009年) 浜田寿美男『自白の心理学』(岩波書店[新書]・2001年) 参考書: G/ハスフォード『フルメタル・ジャケット』(角川文庫) 浜田寿美男『新版 自白の研究』(北大路書房) 大隈輝夫『人間を変える―洗脳のメカニズム―』(筑摩書房) Hugh O'Shaughnessy, Pinochet: the politics of torture, New York University Press, 2000. R・リフトン『思想改造の論理』(誠心書房)		
<b>成績評価の方法・基準等</b>	定期試験の結果(5割)、毎回鑑賞する映像作品の分析レポート(A4判1枚)(5割)を総合的に判断する。なお、レポートは「作品の分析」であって「感想」を求めるものではない。		
<b>受講要件(履修条件)</b>	学習効果を考えて履修者の上限を設けることがある。		
<b>本科目の位置づけ/学習・教育目標</b>			
<b>備考(準備学習等)</b>	紹介する文献・配布文献は必ず読んで理解すること		

2010年度 後期	曜日・校時 金2	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566007005 授業科目/(英語名)	●法と政治(環境と法・政策) Law and Politics		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 103	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 菊池 英弘 / hkikuchi@nagasaki-u.ac.jp / / 内線 2717 / 金曜日 13:00~14:30			
担当教員(オムニバス科目等)	菊池 英弘		
<b>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</b> <b>ねらい:</b> 環境をめぐる法と政治について、基本的な理念、法制度、政策の方向性についての基礎的な知識を得、それに基づいて今後の環境政策の方向を考える基礎能力を得ることをねらいとします。 <b>授業方法(学習指導法):</b> 授業は講義形式で進め、進捗に応じて資料を作成、配布します。理解度の確認のため、授業中に発問することがあります。 <b>到達目標:</b> 地球温暖化対策をはじめとして、環境政策は急速に変化、発展しつつあります。学生諸君が環境法・環境政策についての基礎的な理解を獲得し、社会人として備えることが期待される素養を得ることを到達目標とします。			
<b>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</b> 第1回の授業では、この講義の進め方やねらいなどを説明します。第2回以降の授業は、教科書は指定しませんが、進捗に応じて資料を作成配布し、以下に掲げる予定に従って進めます。			
第16回 定期試験 第1回 10/1:イントロダクション 第2回 10/8:環境法・政策の歴史的経緯 第3回 10/15:環境法・政策の理念・原則 第4回 10/22:環境法・政策の基本的な枠組み(1) 第5回 10/29:環境法・政策の基本的な枠組み(2) 第6回 11/5:低炭素社会と環境法・政策 第7回 11/12:環境汚染と環境法・政策(1) 第8回 11/26:環境汚染と環境法・政策(2) 第9回 12/3:循環型社会と環境法・政策(1) 第10回 12/10:循環型社会と環境法・政策(2) 第11回 12/17:自然共生社会と環境法・政策(1) 第12回 12/24:自然共生社会と環境法・政策(2) 第13回 1/7:国際社会と環境法・政策(1) 第14回 1/21:国際社会と環境法・政策(2) 第15回 1/28:まとめ			
<b>キーワード</b>			
<b>教科書・教材・参考書</b>	資料:講義の進捗に応じて資料を作成、配布します。 参考書:講義の中で適宜紹介します。		
<b>成績評価の方法・基準等</b>	定期考査(90%)によります。ただし、授業への積極的な取組状況を評価に加えます(10%)。		
<b>受講要件(履修条件)</b>			
<b>本科目の位置づけ/学習・教育目標</b>			
<b>備考(準備学習等)</b>			